

みんなでつくる安全・安心のまち

美濃山小拠点にパレード



横断幕を掲げて行進する参加者たち

同パレードは、住民たちの防犯意識の向上を図り、犯罪への抑止力を高めること

「安全・安心のまちづくり」パレードが11月23日、美濃山小学校を拠点に開催され、約1000人の参加者が、防犯を呼び掛けるプラカードを掲げるなどしながら地域を行進しました。



プラカードを掲げる参加者たち

とで「安全・安心のまちづくり」を推進しようと、八幡市自治連合会が主催。市内を6地域に分け、年ごとに地域をかえながら、平成16年から毎年開催されており、今年で15回目となります。

パレード前に行われた記念式典では、同連合会の上原嘉昭会長が「安全・安心のまちづくりへの協力者がどんどん増えてきており、大変うれしく思っています。これからも八幡市自治連合会が中心となって市民意識の高揚を図り、安全・安心なまちをつくっていききたい」とあいさつ。また、「安全・安心のまちづくり」に貢献された5人に感謝状が贈呈されました。

パレードでは、パトカーや京都府警察平安騎馬隊の先導で参加者たちが行進。「ひったくり注意」や「空き巣にご用心」などのプラカードを掲げ、さらなる防犯意識の向上を住民たちに呼び掛けていました。

音楽で交流深める



演奏する市内中学校・京都八幡高校合同バンド

「第20回記念音の祭典 in YAWATA」が11月11日、文化センター大ホールで開催され、約750人の観客が、出演した11組の演奏を楽しみました。

この祭典は、小学生から社会人までの幅広い世代に、音楽を通じて交流を深めてもらおうと、文化協会の協力を得て、毎年、市が主催しており、今回で20回目を迎えました。

オープニングでは、第20回を記念する特別出演として八幡市民オーケストラが演奏を披露。ヴァイオリン

やチェロなどの弦楽器による美しいハーモニーが会場を包み、観客たちは心地よさそうに音色に聴き入っていました。その後、市内で活動する吹奏楽団や和太鼓サークル、市内小学校のグループが演奏や合唱を披露。市内中学校や京都八幡高校の吹奏楽部合同バンドは、人気アーティストの曲のメドレーなどを演奏し、観客たちは手拍子しながら演奏を楽しみ、会場は大いに盛り上がっていました。

第20回記念 音の祭典 in YAWATA

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



玉入れをする参加者たち

障がい者スポーツ大会

「第40回八幡市障がい者スポーツ大会」が11月10日、市民体育館で開催され、135人の参加者が紅白に分かれ、さまざまな競技を楽しみました。同大会は、障がいのある人を含んだ多くの市民のふれあいを深めるとともに、障がい者スポーツを振興しようと、毎年、市内のボランティア団体に協力を呼び掛けて市が主催しており、今回で40回目を迎えました。

大会では、「借り物競走」や「ボールリレー」「紅白綱引き」などの7種目を実施。「紅白玉入れ」では、開始の合図とともにかごに向かって次々と玉を投げ入れるなど、参加者たちは勝利を目指しつつも、楽しみながら競技に取り組んでいました。また、同大会の第40回を記念して制作されたスライドショーも上映。第1回からこれまでの同大会の写真が映し出され、観賞した参加者たちは笑顔が浮かべながら懐かしそうにスライドに見入っていました。

笑顔全開 競技にトライ

135人、綱引きや玉入れ

1日1円貯まった善意

「愛の貯金箱」開封

八幡市老人クラブ連合会

八幡市老人クラブ連合会の会員たちがコツコツ貯め続けた「愛の貯金箱」の開封作業が11月19日、福祉会館で行われ、女性会員を中心に約40人が貯金箱を開封し、硬貨などを仕分けました。

94万5千801円市に寄付



硬貨などを仕分ける女性会員たち

この活動は、「1日1円」を合言葉に市の福祉に役立てようと、同連合会が昭和56年から毎年実施。今年の2月に約5千個の貯金箱を会員に配布し、買い物のお釣りなどを貯金してきました。

会員たちは4つのテーブルに分かれて仕分け作業を開始。テーブルには貯金箱から取り出された硬貨が次々と積まれて善意の山ができ、会員たちは慣れた手つきで手際よく硬貨を1円玉とそれ以外に仕分けていました。

市内7カ所の郵便局の協力で集計された合計金額は94万5千801円で、全額が市に寄付され、福祉のために使われます。